

広報 **ふじ**


昭和56年元旦

№.310

迎春



私の私



新春と寿ぎ市民のみなさまの健康と
ご多幸と心からお祈り申あげます
新らしい年を迎え心のかような個性豊かな
魅力あるまちづくりに市民のみなさま
な魅力あるまちづくりに市民のみなさま
まの手をとりあつて力いっぱい働きます
みなさまの支援とご協力を
願ひ申あげます

昭和五十六年元旦
富士市長 渡辺彦太郎

田中雅己さん (電車機関士)

- 今年も無事故だ。とにかくそれがいちばん大切だ。



久保田記子さん (薬局店)

- 子供と外に出て若さを保ちたいワ。化粧も大切だけどネ。



藤巻延吉さん (医師)

- 市民のために市立病院の整備を早く進めてほしいね。



山田泰善さん (住職)

- 宗教者としての修業にいっそう努め頑張っていきたい。



志村久美子さん (バスガイド)

- どうやら2年目。後輩にしたわれる人になりたいです。

佐野嘉子さん (保母)

- この子どもたちの目が、もっと美しく輝くように……。

川口芳和さん (消防士)

- レインジャー隊員もやっています。仕事をもっとおぼえたい。

新春



上 交子さん (電話交換手)
●お客さんの身になってサービスに努めています。



稲穂悦由さん (割烹料理店)
●今年は年男なんです。商売ますます繁盛といきたいね。



今年もよい年でありますように……、新春を迎えて、願う思いはみな同じ。
みなさま、新年明けましておめでとうございます。

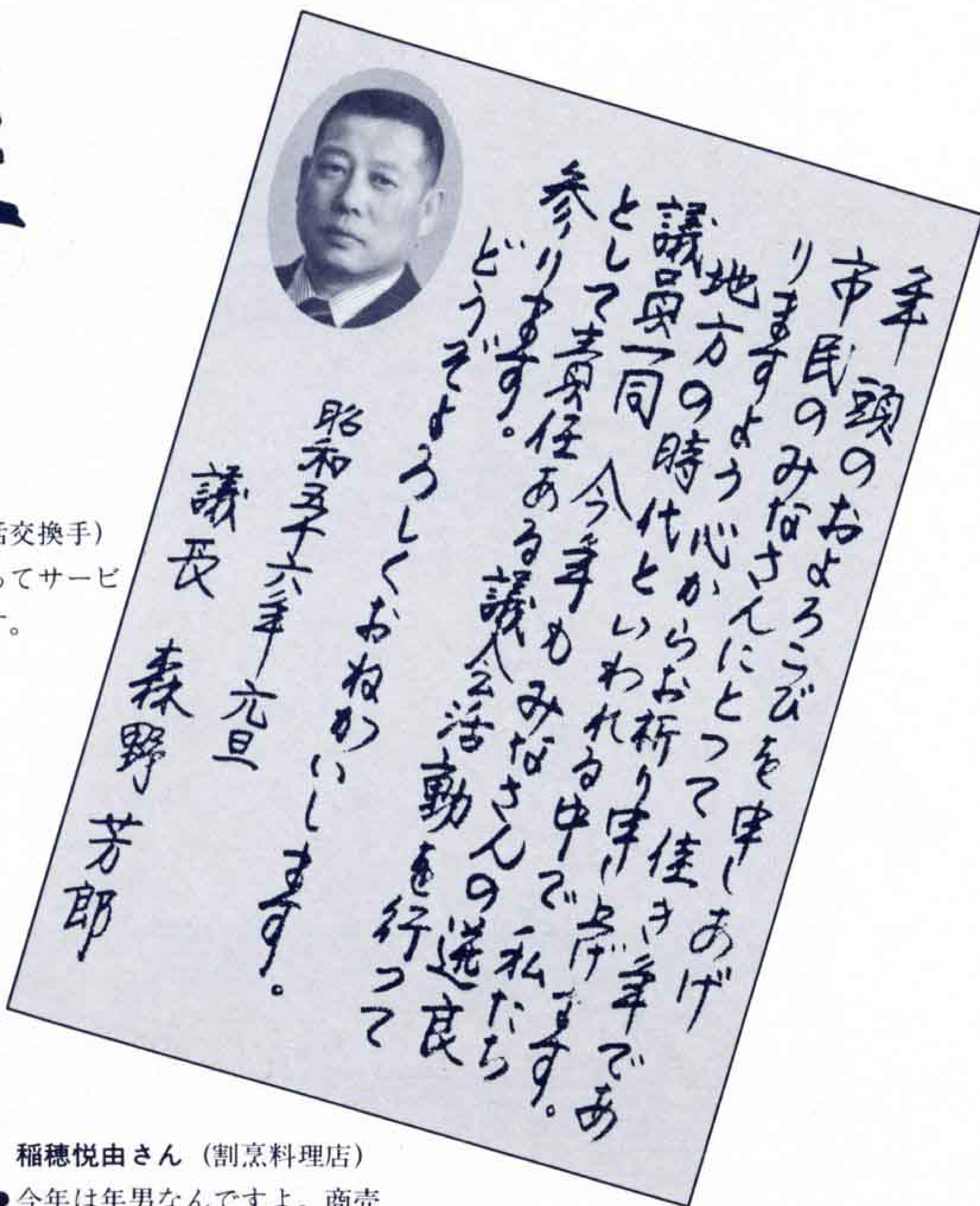


山地法子さん (労働金庫)
●いい家庭を一日も早くつくりたい。とにかくそれが夢。

荒井昭恵さん (美容師)
●プロとしての腕をもっともっとうみぎたいワ!



松永寿夫さん (中学教諭)
●「ゆとりと充実」をめざす学校教育に力をそそぎます。



議長 森野 芳郎
昭和五十六年元旦

市民頭のおよろこびを申しあげ
ります。みなさんにとつて佳きあ
ります。よう心から祈りあげ
地方の時代といわれ、今年であ
議員一同、今年もみなさんの選
として責任ある議員会活動を行
参ります。どうぞよろしくおねが
います。



現在も受継がれている鶴無ヶ淵の神明宮神樂 かぐら

市民の生きがいを求めて

市民文化懇談会

文化都市建設のビジョンに取り組む

54年9月に、渡辺市長の発案でスタートした市民文化懇談会が、1年有余にわたる論議を重ねてこのほど、その指針ともいふべき、「文化振興の中間まとめ」を発表しました。

この懇談会は、80年代の行政課題を「地方の時代」「文化の時代」に求め、自由な話し合いの中から生まれた成果を、今後の文化行政に反映しようというもの。

メンバーは、石田潔座長を代表に市内各層から選んだ知識人26人で構成しています。

物の文化と心の文化の調和

「中間のまとめ」で注目されるのは文化を単に芸術や文化財の保護などに限定せず、日常生活の中で、より良く生きようとするすべての営みといった幅広い視野でとらえていることです。

その中で、物の文化と心の文化の調和を基調に問題点をつかみ、豊かな文化の創造に向けて住みよい文化都市、富士市を建設しようと提言しています。

以下、その内容にふれてみましょう。

事業欲が強い市民性

文化は、そこに住む人々と風土とのかかわり合いの中から生まれるといわれます。

富士市の文化の土壌は美しい富士山を背景に恵まれた自然条件。東海道ベルト地帯に位置し、交通の要衝

文化にひとこと

つには時間が短かすぎるようだ。ブレンドしたての酒が舌にきこえないのと似ている。たっぷりとした熟成期間が必要なのでは……。それぞれが、過去に培ってきた強烈な個性を持っているため、共同作業には不慣れなのかもしれない。もっと声高らかに自分を表現し、心の優しさを持って、互の非を戒め合うべきだ。

真の美しさを追求



音楽指導者 渡辺康子さん

(4)

近年、ママさんコーラスなどの盛況を含め、戦後の日本社会の歩みと同様、音楽も随分と変わってきました。

音楽文化は、私の住む周辺にまで来ています。

音楽は、楽器を通して人間の心を表現するので、一人一人が常に努力を重ねていかなければなりません。そして、真の美しさに触れたときこそ、本物の文化が生まれると思えます。

という地理的条件。東海道の宿場町といった歴史的條件。そこに芽生え発展してきた製紙工業—これらが生産都市を形成する軸となり、一方では、働き者といわれ、勤勉で事業欲の強い市民性に支えられて今日の生産都市を築いてきました。反面、持ち前のたくましい活力が、仕事中心に向けられて心の文化よりも経済優先の価値観が生まれたのではないかと思います。

開かなかった文化の花

江戸時代、幕府の直轄地であった富士市は城もなく、江戸と京との中間という恵まれた地理的条件から文化が素通りし、他の都市に見られる

ような城下町や宿場町としての文化の花が開かなかった。それだけに、よりよく生きようとする住民の活力が物の文化へたくましく発揮されたという富士市の文化の特性がうかがわれる。しかし、富士山に結びついた浅間信仰、実相寺に象徴される仏教活動、毘沙門天大祭に代表される祭典大衆文芸としての俳諧など心の文化として歴史的にもいくつかあげられるものがあり、近年、市民の間から盛り上がってきている文化団体や社会教育団体の活動は心の文化への動きとして注目される。

「市民文化講演会」が11月13日吉原市民会館で開かれ、講師のNHKアナウンサー鈴木健二さんは、講演の中で「文化、について次のように述べています。



高い生産力を誇る富士市に手づくり文化をつくるなら、市民みんなが自分の生活の中に文化の意味をしっかりとつかむことが第一。

文化は、良きゆとりある生活の中から生まれるものだから—。そして、今日やったから明日稔るというものではなく、家庭の暮しという長い時間の中で、家族みんなが心を寄せ合い仲良く生きていく。そこに文化が生まれてくる。戸籍だけでつながっている家族の間からは決して文化は生まれてこない。

まず、お互いに家族同志、近所同志あいさつすることからはじめよう。あいさつは相手の心を明るくし、生きがいを生み、社会とのつながりを持つ。そこに地域社会の文化が芽ばえ、大きな富士市の文化が育って行くことでしょう。

心豊かなまちづくりをめざして

人が、よりよく生きようとする営みが文化だといわれる。それには自己形成、自己教育の活動が必要である。その意味では、文化活動や社会教育推進会活動などの生涯教育は他市より活発で遺跡の発掘、調査なども進められているが、芸能、風俗・習慣などの伝承的文化は忘れられがちである。これらをふまえて、問題点の掘起しを行い、今後の課題を次のようにまとめています。

1. 富士山をシンボルにした美しい都市づくり
2. ふれあいのある地域社会、コミュニティづくり

3. 生涯学習の推進、文化意識の啓発
4. 家庭の健全化、家庭教育の推進
5. 自発的な文化活動の育成と環境づくり
6. 地域愛の醸成、伝承文化の保存

これらの課題は、市民一人一人の努力によって、市民自らが育ていくものであり、行政が推進役となって市民と行政とが一体となった「手づくりの文化」を実現していく必要があると結んでいます。

このあと文化懇談会は、更に具体的施策を検討し、最終提言を渡辺市長に答申することになっています。

文化にひとこと

活力を文化の発展に



県立富士東高校長
風間誠之さん

産業の発展にそそいできた活力を、今後、文化の発展と創造に向けるべきでは……。それには、

- 一人一人が文化人であることを自覚し、己を磨き他を愛し、社会に尽くすこと。
- 旧くから住んでいる人と、新しく住みついた人とが融和し、一体となって新しい郷土を育てていく。
- 家庭教育、社会教育を推進するとともに、大学等を設置し、教育機能の充実を計ることが必要。

もっと時間をかけて



朝日新聞記者
山田竜弥さん

二市一町が合併して十余年。三地区が融合して、一つの個性を持



市立博物館

ただいま工事中

春にきてきよあがりませす



駅前横断歩道橋



市営住宅

いま市内各所で昭和55年度の工事が、急ピッチで進められています。

明るい市民生活と、豊かな街づくりをすすめるための公共施設工事。いずれも使うのは私たち市民です。

その私たちが使うところが新春に完成します。

そこで新年号で主なものを紹介します。

昭和56年富士市消防出初式

◆とき

1月11日(日) (小雨決行)
午前8時30分から12時30分まで

◆ところ

市役所南側道路ほか

◆消防出初式の写真コンクールを今年も行います。市民のみなさんの出品をお願いします。

◇問い合わせは

消防本部管理課 内線580

成人おめでとう

2552人が大人の仲間入り

輝かしい20歳の新春を迎えるあなたの門出をお祝いするために成人式を行います。

今年大人の仲間入りをする成人は2552人でこのうち男が1261人、女が1291人です。

当日は、開式に先立ち縁起のよい「神楽」が披露されます。

大学生などで市外に住民登録をしてある人でも、富士市の成人式に出



席できますので、直接会場へお出かけ下さい。

◇1月15日(木)

富士文化センター、午前9時から
吉原市民会館、午前10時30分から



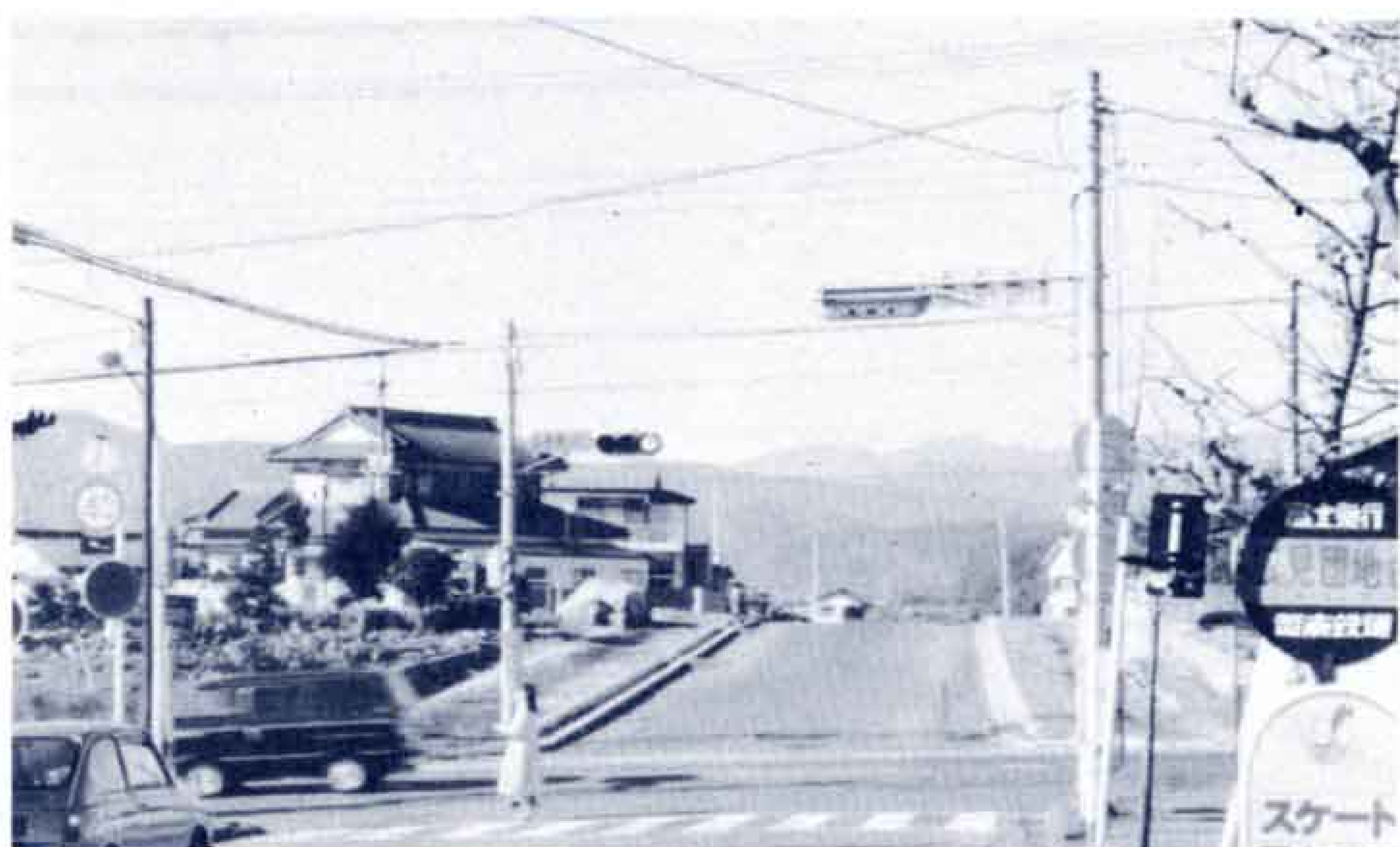
第2清掃工場

写真で紹介した事業の概要

- ・市立博物館（美原町）
鉄筋コンクリート造り2階建て、展示室、工作室や実習室を設置。
- ・駅前横断歩道橋（富士駅北口）
歩道橋の延長43.5m。
- ・市営住宅（富士見台3丁目）
鉄筋コンクリート造り5階建て、1棟40戸。
- ・第2清掃工場（五貫島）
1日のし尿処理能力190キロトン。
- ・仮称市立吉原北中学校（富士見台）
校舎、軽量コンクリート造り4階建て、4946平方m、体育館鉄骨造り2階建1261平方m。
- ・左富士臨港線（伝法）
毎年継続していく事業で、今年度分は延長189.4m。



仮称市立吉原北中学校



左富士臨港線

人口は20万5,752人で県下第4位

昭和55年10月1日現在で調査した、国勢調査の概要がまとまりました。

それによると、富士市の人口は、20万5,752人（男10万2,482人、女10万3,270人）で、5年前の前回調査に比べ6,557人増えています。

しかし人口増加率は、過去最低で3.3%増えたにすぎません。

これはオイルショック以後、富士市へ転入してくる人よりも転出していく人が多く、出生による自然増程度にとどまったからです。

一方世帯数は、5万7,286世帯で前

回に比べ5,756世帯ふえているが、一世帯当たりの人口は3.9人から3.6人となり、ここにも核家族化の傾向がでています。

また人口規模からみると富士市は県下第4位となり、沼津市を超越して東部地区の中核都市になりました。以上が概要ですが、この数字はあくまでも概数であり、総理府統計局が後日公表する数字と多少異なる場合もありますのでご了承ください。なお市民みなさんの国勢調査へのご協力を感謝いたします。

県内上位10市の人口概数

順位	市名	人口
1	浜松市	490,827
2	静岡市	458,342
3	清水市	241,578
4	富士市	205,752
5	沼津市	203,699
6	富士宮市	108,208
7	焼津市	104,362
8	藤枝市	103,224
9	三島市	94,613
10	磐田市	75,810

ふるさとの昔話

実相寺の 仁王さん

●日本のふしぎな話
「におうとどっこい」から

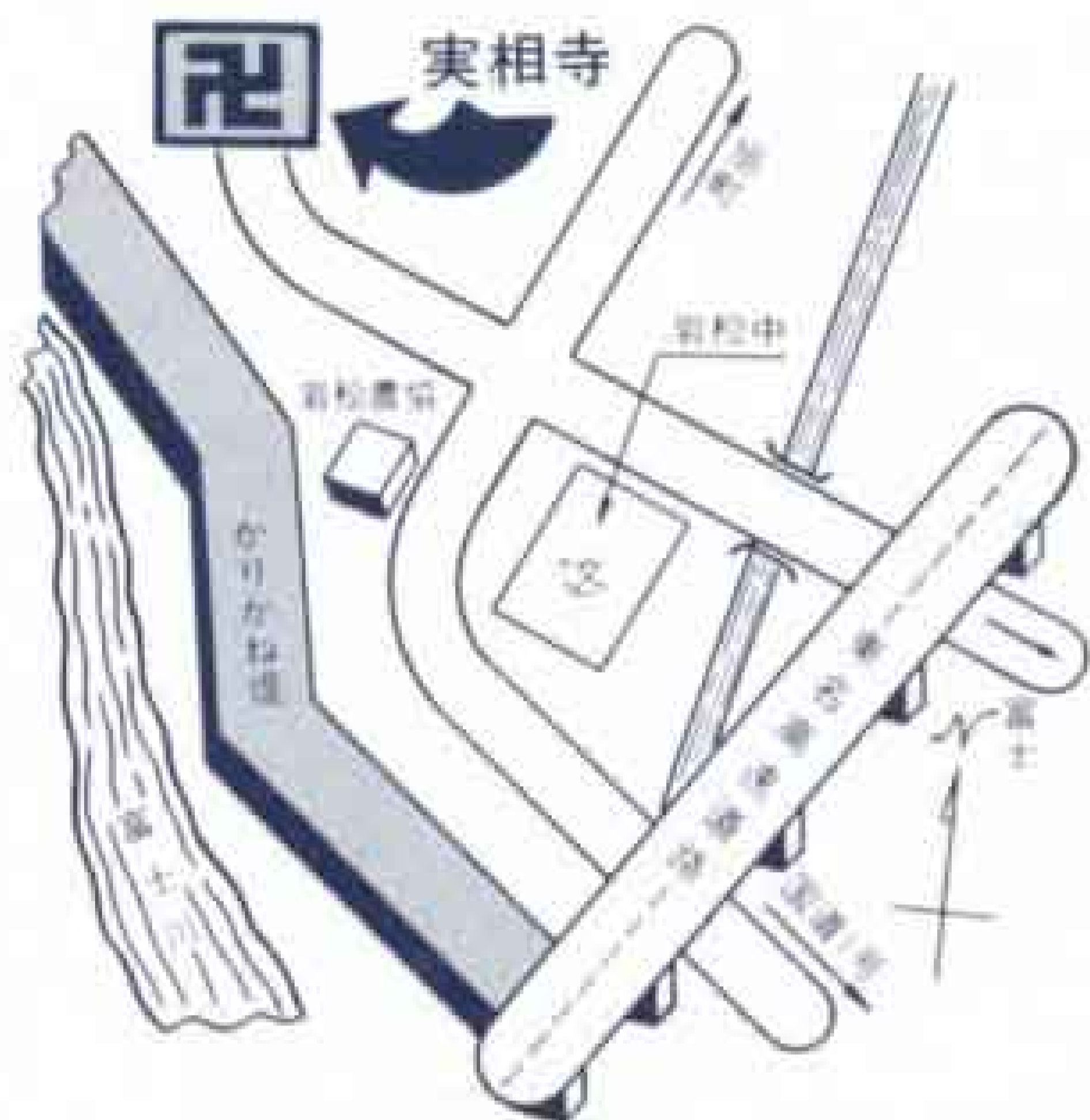


実相寺の仁王門

いわもと じっまつじ
岩本の実相寺に行ったことがありますか。実相寺は今から735年前の久安年間きゆうあんに建てられた市内で一番大きなお寺です。

ここにいつある江戸初期に作られた一対の仁王の木像はすばらしく市の指定文化財になっています。

今回は、この仁王さんのお話です。



桧材で作られた高さ241cmの実相寺の仁王像

昔、日本に仁王におうという力持ちが住んでおった。相撲を取っても、綱引きをしても一度も負けなかった。「わしと力くらべをするものはおらぬか」仁王は日本中を回ったが、だれも相手になりません。「仁王どんとなり隣の国の中国に『どっこい』という力持ちがいるそう」と教える者がいた。「よし、力くらべをしてみよう」仁王は舟をこいで中国へ出かけていった。

ほうぼうさが探し、どっこいの家を見つけたがどっこいは留守で、ばあさまがいた。「わしは、日本一力持ちの仁王だ。力くらべをしようと思ってきたのに残念じゃ」というと、ばあさまが答えた。「そろそろ、お昼じゃもどってくるから、お待ちなさい」仁王が待っていると、ばあさまが飯めしのしたくに取りかかった。大きな釜かまに米を何俵も入れ飯を炊たきだした。ふしぎに思って「だれが食くうんじゃ」と聞くと「息子のどっこいじゃよ」仁

王はびっくり、これはかなわん。今のうちに逃げようと思っていると、ズシン、ドッシン、ズシン…。「ばあさま、あれは何の音じゃ」「あれか、あれは息子の足音じゃ」仁王はあたりを見まわしたがどっこいの姿は見えない。まだ遠くを歩いているらしい。そのうちに、地震のように家が揺れだした。「便所のをかしてくだされ」仁王は便所から逃げた。

どっこいが帰ってくると入口に大きなわらじがあった。「お客さん？」
「日本の仁王がお前と力くらべにやってきました。今、便所に入っている」ところがいつまでたっても出てこない。そっとのぞくといいない。「力くらべに来たのに、どうして逃げるのだろう。連れもどしてくる」とどっこいは



大きないかりを持って追いかけた。

遠くに仁王の舟が見えた。どっこいは「力くらべをしないで逃げるとはひきょう」と言うと、舟めがけていかりを投げた。いかりは舟につきささった。仁王は舟をこぐ。どっこいは綱を引く。お互いに力持ち。とうとう綱が切れてしまい、仁王は海に落ち、どっこいも力余って海に倒れた。ドドド…大きな津波が起きて日本と中国に押し寄せ、大勢の人々が死んだ。

「悪いことをした。もう力くらべは一生しないから許してください」仁王は中国にも行ってあやまり、日本に帰ってからはお寺の門番になった。どっこいも日本にやってきて、あやまり「もし何か力のいる時は、おらを呼んでください。そうしたら一生懸命働きますから」そう言って帰っていった。それで、今でも力を出すときに人々は「どっこいしょ」とどっこいを呼ぶのだとさ。



一人でも待ちます きちんと青信号

須津小6年 栗田賀津子さん (中里1019)

昭和56年度の交通安全全国統一標語に応募して21万点の中から、歩行者用最優秀賞に選ばれ内閣総理大臣賞を受けました。この標語は、ことし一年間、全国で使われます。



富士市出身のマンガ家
望月あきらさんの作品